小学校　第５・６学年　家庭　物を生かして住みやすく

（東京書籍　新編　新しい家庭５・６）

○単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・住まいの整理・整とんや清掃の仕方を理解し適切に行うことができる。	・季節の変化に合わせた住まい方、整理・整とんや、清掃の仕方を考え、快適な住まい方を工夫することができる。	・家庭生活を大切にする心情を育み、家庭や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫し、実践しようとする。

○探究の過程

①課題の設定	他の小学生が整理・整とんに関してどのように取り組んでいるのか、実態調査の結果を扱い、きれいにするだけでなく、整理された状態を保つ方法や、日々整とんする方法を考えるように課題を設定する。
②情報の収集	手順に沿った道具箱の整理・整とんの仕方を知る。
③整理・分析	自分の整理した道具箱と、友達の整理した道具箱を比べ、整理・整とんの方法について改めて考えたり、きれいに保つ方法に気付いたりする。
④まとめ・表現	整理・整とんの仕方や、掃除の手順、ごみを減らす工夫など、学習してきたことを振り返りカードにまとめ、発表する。

○単元計画（７時間扱い）

時	目標	学習活動	探究の過程
1	整理･整とんや清掃の必要性が分かり､自分の生活と照らし合わせ､問題を見いだすことができる。	・整理・整とんの必要性を話し合い、これからの学習の見通しを持つ。	①
2	道具箱の整理･整とんの方法が分かり､次時の活動の計画を立てることができる。	・道具箱の中を整理・整とんするための方法を調べ整理・整とんの見通しを持つ。	②
3	前時までに学んだ､道具箱の整理・整とんの方法を生かして､道具箱を片付け､それを維持する方法や他の物をきれいに保つ方法を考えることができる。	・道具箱の整理・整とんをし、活動したことをまとめる。	③
4	教室周辺の汚れから､毎日の掃除の問題点に気付き､掃除の必要性を理解することができる。	・掃除の必要性を知り、教室周辺の汚れを調べて気付いたことを発表し合う。	
5	雑巾やほうき等の掃除用具の正しい使い方が分かり､適切に使うことができる。	・掃除用具の正しい使い方と掃除の手順を知り、グループで確認し合う。	
6	整理･整とんや清掃の仕方について様々な解決方法を考え､工夫して実践することができる。	・教室周辺を汚れに応じた方法で掃除し、気付きを話し合う。	
7	自分の地域のごみの現状を知り､ごみを減らす方法を考えることができる。	・自分の地域のごみの現状を知り、ごみを減らすためにできることを話し合う。	④

第５・６学年　家庭科学習指導案（第１時）

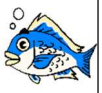
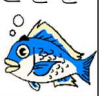
【①課題の設定　単元や節を貫く課題を設定させタイ】

１　単元名　「物を生かして住みやすく」（東京書籍　新編　新しい家庭５・６）

２　本時の計画

目標	整理・整とんや清掃の必要性が分かり、自分の生活と照らし合わせ、問題を見いだすことができる。
探究の過程 課題の設定	他の小学生が整理・整とんに関してどのように取り組んでいるのか、実態調査の結果を扱い、きれいにするだけでなく、整理された状態を保つ方法や、日々整頓する方法を考えるように課題を設定する。

○指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示　◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点
導入 15分	１　小学生の片付けについての意識調査の結果と自分の生活を比べる。 ○２つのアンケートから、子供が考えていることと、保護者が考えていることを見付けましょう。 ◆私は自分で部屋を片付けているのに親から怒られる。	一斉	◎２つの調査から、子供は掃除をしている（と思っている）が、保護者は部屋が汚い（片付いていない）と感じていることに気付かせる。 課題の設定 
	２　子供と保護者の意識の違いが生まれる理由を考える。 ○なぜ、同じ部屋でも「片付いた」と感じる人と「片付いていない」と感じる人がいるのか考えよう。 ◆片付いているという基準が人によって違う。	一斉	◎整理・整とんの意味や、部屋がきれいな状態とはどのようなものか共有する。
展開 25分	３　物を散らかすことによって困ることや散らかってしまう理由を考え発表する。 ○片付いていないことで困った経験はありますか。 ◆出掛ける時間が遅くなる。	個別	◎資料から、部屋が散らかると困ることを考えさせる。
	４　整理・整とんの仕方や気を付けることを考え発表する。 ○生活する場をいつも気持ちよくするための整理・整とんの仕方の工夫を考えよう。 ◆床に物を置かない。 ◆片付ける時間を設ける。	個別	◎部屋が片付いた状態がよいこと、片付いた状態にするための方法を考えるような流れになるよう指導を進める。 ◎「掃除をしてよかったと思うこと」のアンケート結果を活用し、掃除をすることによるよさがたくさんあることを補足する。　課題の設定 
終結 5分	５　次の授業のための疑問や知りたいことを考える。 ○片付けのこつや工夫を次回以降も見付けましょう。 ◆部屋を一度見直してみよう。	一斉	◎整理・整とんする場所や、その方法、調べたいことなどを考えさせるようにする。

第５・６学年　家庭科学習指導案(第２時)

【②情報の収集　課題解決に必要な情報を集めさせタイ】

１　単元名　「物を生かして住みやすく」(東京書籍　新編　新しい家庭５・６)

２　本時の計画

目標	道具箱の整理・整とんの方法が分かり、次時の活動の計画を立てることができる。
探究の過程 情報の収集	手順に沿った道具箱の整理・整とんの仕方を知る。

○指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示　◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点
導入 15分	１　道具箱の見本を見て、整理・整とんをするために何をすればいいか考え、作業の見通しを持つ。 ○自分の道具箱を整理します。そのときどんなことに気を付けるか、考えながらやってみましょう。 ◆使わない物は奥かな。	一斉	◎身近な例から、整理と整とんがされていないと使いにくいことを実感させるようにする。
	２　整理・整とんの違いを確認する。 ○整理と整とんの違いについて考えよう。 ◆どちらも同じ。 ◆整とんの方は物をしまうイメージだ。	一斉	◎整理・整とんの意味の違いを確認し、整理した上で整とんを進める必要があることを気付かせる。
展開 25分	３　持ち物を整理するために必要なことを話し合う。 ○整理するために必要なことは何ですか。	グループ	◎整理・整とんの違いを踏まえることを意識させる。
	整理・整とんをするために手順や気を付けることは何か考えよう。		
	◆よく使う物と使わない物に分ける。 ◆いらないときは捨てるが、いらないかどうか分からない。		・整理…　持ち物の数を確認する。必要な物と必要でない物に分類する。 ・整とん…物の置き場を決める。同じ物はまとめる。使う頻度を考える。　情報の収集 ◎整理・整とんするために大切なこと、片付け方、道具などを必要な情報と捉え、友達と相談をさせる。
	４　持ち物の整理の仕方について、フローチャートを使い、整理の仕方をまとめる。 ○今日考えた整理・整とんの仕方について、お互いに工夫したことを発表しましょう。 ◆今までと違い定位置を決めて片付けた。	一斉	◎フローチャートを活用し、３で出てきた内容を整理させる。 ◎計画する→分類する→置き場所を決めるという流れに沿って考えさせる。
終結 5分	５　自分の道具箱を見て、整理・整とんの計画を立てる。 ○次回、きれいに整理・整とんをするための考えを持ちましょう。 ◆必要かどうか考えてから片付けしよう。	一斉	◎学んだことを生かし、フローチャートに書いてまとめさせる。

第５・６学年　家庭科学習指導案(第３時)

【③整理・分析　考えを出し合わせタイ】

１　単元名　「物を生かして住みやすく」(東京書籍　新編　新しい家庭５・６)

２　本時の計画

目標	前時までに学んだ、道具箱の整理・整とんの方法を生かして、道具箱を片付け、それを維持する方法や他の物をきれいに保つ方法を考えることができる。
探究の過程 整理・分析	自分の整理した道具箱と、友達の整理した道具箱を比べ、整理・整とんの方法について改めて考えたり、きれいに保つ方法に気付いたりする。

○指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示　◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点
導入 20分	１　前時に立てた計画に沿って、自分の道具箱の整理・整とんをする。 ○前回の計画を確認し、道具箱を整とんしよう。	一斉	◎整理・整とんの前に、自分の道具箱を写真に撮っておく。
	整理する前の道具箱と整理した後の道具箱を比べよう。		
展開 20分	２　整理・整とんした道具箱を友だち同士見せ合ってよいところを見付け合う。 ○道具箱を見せ合って、お互いの整理・整とんの仕方を比べよう。 ◆自分のよりきれいに見える。	グループ	◎見た目だけでなく、「快適か」「安全」の視点でよいところを見付けるようにする。整理・分析
	３　友だちのよいところを発表する。 ○道具箱を見て分かったことを発表しよう。 ◆使いやすさを考えている。 ◆まだ物を入れることができる場所を作っている。	グループ	◎道具を使った後の始末の仕方や、しまう物が増えてしまった場合など、今後のことに触れている物も取り上げる。
	４　Jamboardに整理・整とんした道具箱と片付け方の工夫を載せ、互いに見合う。 ○友達の道具箱を見て、工夫をたくさん見付けよう。 ◆分け方にルールがあった。	グループ	◎きれいになった道具箱は撮影をしておき、今後も確認できるようにする。
	５　整理・整とんのポイントを考える。 ○学んだことを生かし、部屋の整理・整とんのポイントを考えよう。 ◆定位置を決めて、その都度戻すことを意識する。 ◆いらない物を捨てることから始める。	個別	◎道具箱の整理の中で気付いたことを生かして部屋の片付け方を考えるようにする。
終結 ５分	６　これまでの学習を生かして、自分の家での整理・整とんについて計画を立てる。 ○自分の家で整理・整とんする場所と、どんな風に片付けるか考えよう。 ◆まずはリビング。荷物が多いから。	一斉	◎家で整理・整とんが必要なところを基に計画を立てさせる。

第５・６学年　家庭科学習指導案(第７時)

【④まとめ・表現　次の課題を見付けさせタイ】

１　単元名　「物を生かして住みやすく」（東京書籍　新編　新しい家庭５・６）

２　本時の計画

目標	自分の地域のごみの現状を知り、ごみを減らすためにできることを考えることができる。
探究の過程 **まとめ・表現**	整理・整とんの仕方や、掃除の手順、ごみを減らす工夫など、学習してきたことを振り返りカードにまとめ、発表する。

○指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示　◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点
導入 5分	１　ごみの捨て方クイズを行い、処分の大変さに気付く。 ○自分の住む○○町では、～は何ごみになりますか。 ◆燃えるごみに入るか迷う。 ◆分からないときはどうするのか。	一斉	◎紙、ガラス、プラスチック、缶・瓶、生ごみとそれぞれ捨て方に違いがあり、ルールがあることを考えさせる。 ◎第３学年で学習したことを想起させる。
展開 35分	２　ごみを減らす工夫を考え、友達と共有する。	個別	
	ごみを減らす工夫を考えよう。		
	○ごみを減らす工夫を考えましょう。 ◆物を買う前に必要か考える。 ◆使わないときもすぐ捨てるか、使うのか考える。		◎「物を買うとき・手に入れるとき」「使うとき」「使わなくなったとき」など、様々な場面に沿って考えさせるようにする。
	３　共有した考えを生かしてこれまで学んだことを振り返りカードにまとめる。 ○これまで学んだことを、振り返りカードにまとめましょう。 ◆整理・整とんのやり方をつかむことで、ごみを減らせることも学んだ。	個別	◎家の整理・整とんの計画を立てる。その際にはこれまで学んだ整理・整とんの仕方や、掃除の手順、ごみを減らす工夫を生かして計画立てさせる。
	４　Jamboardで、互いの振り返りカードを共有する。 ○お互いの振り返りカードを見合おう。 ◆友達の振り返りカードを見ると、自分がやっていない工夫があった。 ◆整理の仕方について詳しくなった。	個別	◎これまで学んだことを振り返るとともに友達の整理・整とんの仕方を見て、更に自分の家の片付けに生かすように指導する。
終結 5分	５　まとめた振り返りカードを発表し合う。 ○自分の家でやりたいことまで入れて、振り返りカードにまとめたことを発表しよう。 ◆まずはリビングについて、いらない物を片付けたい。	一斉	◎計画を生かし、自分の家で実践することを確認し、その結果を振り返りカードに記入することを伝える。